

# ヒロシマ・ナガサキの怒りを行動へ

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

## 8・6-8・9 広島-長崎 反戦闘争に参加して

青年部 A君

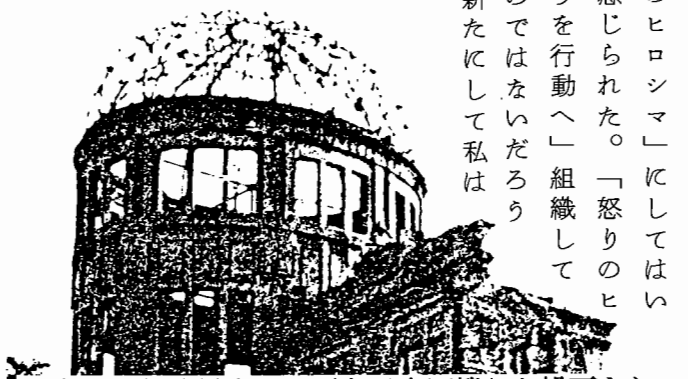
佐倉支部 Bさん

八・六ヒロシマ闘争に決起した。県労連の一員として原水禁大会に参加し、八・六広島反戦全国闘争に合流してきた。八月四日、被爆四三周年原水爆禁止世界大会には全国から反核・平和を願う人々八〇〇〇名が結集していた。集会最後に登壇した約五〇名の中学生たちの「いくつヒロシマをつくれば（核実験をやめてくれるんですか）」という訴えが胸をうつ。八月五日、「討論と交流のひろば」十三分科のうち「青年階層別交流」に参加、動労西日本の岡崎青年部長といっしょになる。

八月六日、広島反戦全国闘争に合流。午前中、広島大学で階層別集會に参加し、約四〇分の特別報告を行なった。午後から平和公園にむけたデモに決起。平和公園において、権力・広島市当局の弾圧をうち破り、全人民反戦宣言集會が実力でかちとられる。再びデモで、原水禁本部のある広島労働会館までデモ。約二〇分の準備時間をとったのちに、中・四国・関西から結集した労働者・人民で満杯になった大ホールで広島反戦全国集會が開催された。

連帯のあいさつで、動労西日本の井面委員長が登壇し、「動労西日本のように闘おう」と訴えられた。私も動労千葉の決意と九・一一集會への参加を訴えてきた。

ヒロシマで約二〇万人もの人々がたった一発の原爆で殺された。彼らは「安らかに眠って」いるのだろうか。不屈に生きつづける被爆者、二世、三世の姿を見て、「祈りのヒロシマ」にしてはいけないということが強く感じられた。「怒りのヒロシマ」「ヒロシマの怒りを行動へ」組織していくことが問われているのではないだろうか。反戦・反核の誓いを新たに私は帰路についた。



一九四五年八月六日、同九日米軍機から投下された新型爆弾は一瞬にして広島、長崎を壊滅におこした。爆発と同時に摂氏数百万度、数十万気圧という高温・高圧の巨大な火の玉が発生、強烈な熱線と放射線および爆風が襲った。地上のあらゆるものを破壊しつくし、焼きつくし、高度一万メートルに達する不気味なキノコ雲は、やがて放射能を大量に含んだ“黒い雨”となって降りそそぎ、晴天を真っ暗闇の空へと変えた。原爆の犠牲者はすでに二十万人をこえ、いまなお四十万人近くの人々が後遺症に苦しんでいる。また、当時日本に強制連行されてきていた朝鮮・中国人被爆者（数万人といわれる）の存在を忘れてはいけない。

八八年長崎原水禁大会に参加して、自分なりに「核とは何か」を考えました。一発の原子爆弾が二〇万人、三〇万人の人々の命を一瞬のうちに奪い、その数倍を上まわる人々がいまなお病気に苦しむ、二世、三世にも放射能の影響が残るといふ、まさに人類と核は共存しえないものであります。そうした核爆弾が全世界に数万発あるとされ、全地球を数千回破壊できるとさえ言われる核を廃絶しようと集會が開催されたのです。

八月八日、朝九時より長崎市公会堂の会場において「いま生活の場から反核を、日本こそ非核・軍縮を」講演と討論に参加しました。会場は一七〇〇人入る会場にほぼ満席に近い数が集まりました。感じたことは、最近高まる反原発闘争の参加者が多くいたことです。

質問の中で、ある広島教師の人が、「三里塚の闘い」を訴えたことが印象的でした。八日の夕方、長崎反戦集會があり、動労千葉を代表してお礼とあいさつをしました。

特に、実行委員会の代表である伊東鉄東さんは被爆者であり、政府・自民党に対する怒りのすごさを感じたものです。

九日は、朝八時浦上駅前の国鉄反戦被爆者の碑に県労連動員者として花束をささげ、平和公園への参拝、国際体育館での閉会総会への参加で、核兵器廃絶、原発廃止を強く感じました。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！